

練馬古文書研究会会報

第 68 号

二〇二五年三月十日発行
練馬古文書研究会<https://www.tbjgohu.jp/~page/y/>

目 次

「春日若宮おん祭」見聞記	加藤 歌子……1
武蔵御嶽神社御師天野邸の常夜燈	本橋 竹文……2
【薦屋重三郎について】	高林 鮎太……4
事務局通信	寒河江耕作……4

「春日若宮おん祭」 見聞記

加藤 歌子

「春日若宮おん祭」を初めて拝観したのは、昭和四十八年（一九七三）元の勤務先で学生の研修旅行に同行した時でした。その時の感動が深く心に刻まれ、再びその感動を味わいたいとの長年の思いを令和四年（二〇二二）、五年（二〇二三）、六年（二〇二四）と連続して拝観する機会に恵まれ、叶えることができました。その時見聞したことを中心にごく簡単ですが「春日若宮おん祭」を紹介したいと思います。

「春日若宮おん祭」は、奈良県春日大社の摂社若宮神社の祭礼で、十二月十五日から十八日まで行われます。昭和五十四年（一九七九）に国指定重要無形民俗文化財に指定されました。

保延二年（一一三六）、時の関白藤原忠通が天下泰平、五穀豊穡を祈願して大和国一國を挙げて執行したのが始まりで、今日まで途切れることなく継承され、昨年の令和六年は第八八九回でした。

「春日若宮おん祭」は、若宮神社の御神体の若宮様を十七日午前零時に本殿から御旅所の仮御殿

にお遷しする「遷幸の儀」から十七日の深夜二十四時間以内に、本殿にお還りになる「還幸の儀」までに様々な神事芸能を奉納する祭礼です。令和四年はあいにく雨となり「御渡り式」「松の下式」は中止となってしまいました。御旅所での神事芸能は一部を除いて執行されました。雨にも関わらず大勢の人々で溢れていました。しかし残念な年となってしまいました。

令和五年、六年は天気に恵まれ、様々な神事芸能を拝観することが出来ました。

昨年は「遷幸の儀」を拝観するためホテルを二十一時過ぎ一人で出かけたのですが、人っ子一人歩いていない参道は灯りが全くなく、暗闇の中懐中電灯で足元を照らし、心細くなりながら二之鳥居に向かいました。令和四年の時、同様に暗闇の参道を歩いていますと、突然鹿の集団が私の眼前を駆け抜けて行ったのには驚きました。

令和五年は二之鳥居前で「遷幸の儀」を大勢の人と拝観しましたが、昨年は場所を変え、たまたま知り合った女性と三人で御旅所近くの見通しの良い参道脇で拝観することにしました。

午前零時を過ぎ、寒さも忘れ、厳肅な気持ちで待っていますと、突然大松明の炎が暗闇の萬葉植物園辺りを明るく照らし、ゆっくりと近づいてくるのが見えました。二本の大松明は掲げずに参道を引き摺りながら進みますので、その後



御旅所の仮御殿